

2020年6月12日

新型コロナウイルス感染拡大予防にかかる標準的対策

認定 NPO 法人 日本クリニクラウン協会

この対策は、国、及び大阪府、における感染拡大防止に向けた取り組みに基づいて作成したものである。(2020年6月12日に当協会の運営会議で了承されました。)

新型コロナウイルス感染症の主な感染経路である接触感染と飛沫感染のそれぞれについて、クリニクラウンや訪問施設の利用者の動線や接触等を考慮したリスク管理を行い、そのリスクに応じた対応策を徹底して講じること。

1. 日常の移動に関する感染防止対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 帰省や旅行はやむを得ない場合を除いて控える。
- コンサート会場等、密集した場所への出入りは極力避ける。
- 誰とどこであったかをメモして行動を記録しておく。
- 地域の感染状況に注意する。
- 普段からの健康管理を徹底して、栄養と休養を十分に、体力をつけ、抵抗力を高め、うつらない！ うつさない！ 広げない！ を原則とする。

2. 訪問前の注意：以下の事象がある時は、速やかに事務所に連絡すること。

- 発熱（37.5℃以上）、もしくは軽度であっても風邪症状（咳、くしゃみ、鼻水、のどの痛み）味覚異常、臭覚異常などがある場合は、外出せず、自宅で待機し、事務所に連絡する。受診等に関しては住まいの担当地区の保健センターやかかりつけ医に相談する。
- 解熱後 24 時間以上が経過し、風邪の症状が改善するまでは自宅で待機し、活動は禁止する。
- 2 週間以内に同居家族が海外から帰国した場合は、原則自宅待機し、毎日健康チェックを行う。
- 濃厚接触者に特定された場合は、必ず事務所に連絡し、検査結果が陰性でも念のため 2 週間は自宅待機とする。濃厚接触者に特定されなかった場合でも、疑いがある時は同様にする。

3. 訪問直前後の注意

- 健康チェック表を用いて、①まず自宅で体温を測定し、その他異常がないことを同行者と相互確認して、事務所に連絡する。
- マスクは常時着用を原則とする。

- 訪問病院の体制に準じて健康チェックを受ける。(体温測定、症状の有無の問診等)
- 入口及び施設内の手指消毒をし、訪問先担当者の指示された場所でうがい、手洗いを
行う。
- 事前の情報交換ミーティング時に使用してよい物品、使用範囲を確認する。
- フェースシールドの必要範囲についても、施設の意向に沿って行う。
- ハーモニカ等呼吸を用いて鳴らす楽器等は、フェースシールドを装着して行い、密
になりやすい個室では行わない。
- 施設内では、事前に定められている場所に直行する。移動は必要な範囲にとどめ、
終了後は速やかに退出する。

4. 訪問中の注意事項

- 咳エチケット(マスクの着用、ティッシュペーパーやハンカチを使って鼻を押さえる)
る)を徹底する。
- 病棟への入室時及び退室後は、出来るだけ石鹸を用いた流水による手洗いを丁寧に
行う。病室に設置してあるアルコール消毒液で必ず手指消毒をする。
- アルコールジェルを携帯し、その都度手指消毒を徹底する。
- 共通で触れるところは、ウイルスが付着しているかもしれないという意識で行動す
る。ベット柵やドアノブ等複数の人が触れる箇所は出来るだけ触らない様にする。
- 近距離(1m以内)での会話は禁止とする。特に、対面での関わりの際は距離保つ
ことを特に意識する。
- 病室に入る際は、“三密防止”に留意して、出来るだけ人が集まらない様に、滞在
時間が長くない様に工夫する。
- パフォーマンス等で使用する物品は、手から手に渡らないように工夫する。
- 使用した物品は、その都度アルコールで拭き取りや噴霧を行う。
- 着替え等で使用した部屋の物品等は、指定された拭き取りや消毒を施設責任者に確
認し行う。
- 接触感染リスクの高い部位とは、「テーブル・椅子の背もたれ・ドアノブ・照明や
エレベーター等のスイッチ・キーボード・タブレット・手すり、トイレの便座、便
器のフタ、水洗レバー、電車やバスのつり革」です。特に注意を払うこと。
- 新型コロナウイルスの環境や物質表面における生存時間を認識し、手洗い、うがい、
消毒を心がける。
 - エアロゾル(空気中に漂う微粒子)中では3時間以上
 - 厚紙(段ボール)の表面では24時間後まで
 - ステンレススチール表面では48時間後まで
 - プラスチック表面では72時間後まで

★PCR検査、抗原抗体検査は、受けることが可能な社会状況になれば、協会の方針
として速やかに受けることとする。

以上